

2023年2月24日

神戸市で回収したハブラシを定規に再生し市民に還元 ～神戸市・アマタ・ライオン・三井化学・サンスターがプラスチック資源循環で協働～

2023年2月19日(日)、神戸市、アマタホールディングス株式会社(以下、アマタ)、ライオン株式会社(以下、ライオン)、三井化学株式会社(以下、三井化学)、サンスター株式会社(以下、サンスター)は、神戸市長田区のコミュニティ施設「ふたば学舎」で、市民の皆さまに呼び掛けて回収した使用済みハブラシのプラスチックをもとに再生リサイクルされた定規を、「ふたば学舎」で開催された「自由工作ワークショップ」に参加した市民のみなさまにプレゼントしました。



今回製作したハブラシ再生プラスチック定規は、神戸市「ふたば学舎」のプラスチック資源回収ステーションの取り組みに、資源循環事業の共創を目指す企業連合「ジャパン・サーキュラー・エコノミー・パートナーシップ(J-CEP)」が連携して実施した使用済みプラスチック回収リサイクル実証実験の成果物のひとつです。「ふたば学舎」の資源回収ステーションでは、2021年11月からハブラシのほかペットボトルや食品トレイなど各種使用済みプラスチックを市民の皆さまに呼びかけて回収しています。その中で、使用済みハブラシについては、神戸市と、J-CEP参加企業のアマタ、ライオン、三井化学、サンスターによる分科会で回収リサイクル実験が行われました。回収されたハブラシは、ポリプロピレン素材を主とするハンドル部分を集め、他のポリプロピレン樹脂も加えて成型し15cmの再生プラスチック定規に生まれ変わり、ハブラシ回収にご協力くださった地域の方々への還元としてプレゼントされました。

なお、今回の実証実験では、プラスチック素材の分別を容易にするため、ハブラシをハンドルの色で透明・不透明に分けて回収したほか、市民の皆さまが事前に洗浄して下さるなどの配慮により、品質の良い再生プラスチック(ポリプロピレン)の成形品が得られました。一方で、ハブラシ毛や金属片などが含まれるヘッド部分の切除、色だけでは判別できないプラスチック素材の分別、ポリプロピレン以外のプラスチックの活用、再生プラスチック成形工場稼働に必要な再生プラスチック量確保などの課題も明らかとなりました。使用済みプラスチックの回収リサイクルを社会に根づかせるためには、回収、分別、解体、洗浄、運搬、保管、成形をいかに効率よく環境負荷の低い形で構築できるか、また、製品そのものをいかにリサイクルしやすい設計に変えていくかなどの検討が必要です。サンスターとしても、環境負荷の低い製品づくりを推進するとともに、今後も産学官連携による循環型社会づくりの取り組みに積極的に参加してまいります。

●神戸市のプラスチック資源回収ステーションの取り組み

<https://kobeplasticnext.jp/next/recovery-of-plastic-resources/>

●ジャパン・サーキュラー・エコノミー・パートナーシップ(J-CEP)のプラスチック資源循環の取り組み

<https://www.j-cep.com/action>

●サンスターの環境への取り組み

<https://www.sunstar.com/jp/sustainability/environment/>